

坂戸市立片柳小学校 学校だより

やなぎの子

学校教育目標

よく考え 心豊かに たくましく

令和7年度1月号(令和8年1月7日発行)

児童数: 329名

Tel 283-4735 Fax 289-1015

【校訓】かしこい子 たくましい子 やりぬく子 なかよくする子 気持ちよく働く子

《新年 あけまして おめでとうございます》

昨年は保護者の皆様をはじめ、地域の皆様には本校教育活動にご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年も教職員一同、力を合わせて、子供たちの健やかな成長を目指し、地域と共に歩む教育活動を推進してまいります。



今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

さて、学校では、いよいよ本年度のまとめと次年度の進級・進学に備える3学期が始まりました。新しい年を迎え、大きな夢を描くのと同時に、今年はどうしてみよう、これができるようになろう、という具体的な目標や抱負、希望を抱いて3学期を迎えてほしいと思います。3学期は1学期・2学期に比べて短く、まとめの学期になりますので、意欲的に学習や運動に前向きにチャレンジして欲しいと願っています。子供たちは少し意識を変えるだけで自分自身を高めることができます。そのためにもお互いに励まし合いながら、切磋琢磨してより高みを目指してほしいと考えています。

保護者の皆様には、子供たちにとって3学期は一人一人が前進するための大切な時期と捉えていただければと思います。

どの学年の子供たちにも次の学年への大切な学期であることを伝え、「当たり前のことをしっかりしていく」そして、自ら学び、自ら考え、自ら判断し、よりよく問題を解決していける力が身につくよう教職員一同支援してまいります。

特に6年生にとっては、卒業・進学という人生の節目を迎えようとしています。6年生一人一人が自分の目標を持ち、残り少ない小学校生活を送ることができるよう担任を中心に取り組んでまいります。



保護者の皆様、地域の皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

《自己決定について》

◎ よく考え

◎ 心豊かに

◎ たくましく

新しい年が始まりました。皆さんは、どのような抱負を立てましたか。

以下は、昨年の「二十歳を祝う会」でのある二十歳の方が語った抱負の抜粋です。

「中学までは、私たちにはある程度の正解が示されていました。勉強と部活動に励み、校則を守り、学校行事に真剣に取り組む。そんな生徒が模範的とされていて、私もその『正解』に従ってきました。高校への進学も正直に言えば、それが普通だから、周りがみんなそうするから、先生がそう言っているから、と自分の進む道を決めてきたように思います。いい大学に進学して、いい会社に入

る、そのような人生を歩んでいくことこそが唯一の『正解』なのだと思っていました。

様々な価値観や考え方に触れることを通して、世界は自分が思っているよりもずっと広いことを知りました。この数年で見てきた人たちの中には、人生の先輩として、大人がたくさんいました。同時に、こんな大人にはなりたくないと思うような人もいました。他人を犠牲にしても、自分の利益を優先させる大人、負の歴史や不平等な社会構造に向き合わず、見て見ぬふりをする大人、理不尽なことを仕方ないと言って、それに適応しようとする大人、それはおかしいと声をあげる大人、若い世代のためにより良い社会を残そうと努力する大人。彼らは、私たちに色々なことを言ってきます。

しかし、もう誰も『正解』は教えてくれません。何が正しくて何が間違っているか、何が許せないか、何が大事で、何を守りたいか、自分にとって何が幸せで、どのような人生を送りたいか、全て自分で決めていくのです。とても自由ですが、難しさもあります。たとえ苦しくても、その不安定さに向き合うことだと思います。自分の軸となる価値観を見つけるために、考え続けることが必要なのではないかと思います。不安定さに耐えきれず誰かが決めた『正解』に従っても、誰も責任を取ってはくれません。立ち止まりながらも、自分の力で立ち上がり、前を向いて進もうとすれば、そんな私達を支えてくれる人は必ずいます。そんな人たちの力を借りながら、自分のペースで進んでいけばいいのだと思います。

私は、信念を持ちつつ、自分の弱さを認められるような、しなやかな強さを持った大人に、理不尽なことには声をあげられる勇気ある大人に、そして頑張っている人達の味方であるような、困っている人に手を差し伸べられるような温かい心を持った大人になりたいです。そして、今までの人生で受け取ってきたたくさんのものを、できる限り社会に還元していきたいです。これからも色々な出会いがあると思います。一つ一つの出会いを大切に、自分を信じて一歩踏み出すことで、様々な可能性が広がることを信じています。そうして数多くの選択肢の中から自分で選び取って、自分だけの人生を歩んでいきたいです。」

自己決定を行い、自分自身で人生を切り開く決意がひしひしと伝わってきます。本校でも、自己決定を促しながら、たくましい片柳小の児童を育てていきます。



《ヤングケアラーについて》

12月17日（水）、4年生でヤングケアラーについて授業を行いました。

ここ数年、ヤングケアラーという言葉が徐々に耳にするようになってきました。子ども・若者育成支援推進法では、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」として、ヤングケアラーを、国・地方公共団体等が各種支援に努めるべき対象としています。

ヤングケアラーに係る問題として難しいことの理由として、

- ・本人がヤングケアラーとの自覚していることが少ないこと。
- ・本人が介護等について、周囲に対して黙っていること。
- ・周囲が本人の状況に気付きにくいこと。

当日の授業では、「ヤングケアラーとは何か？」について、子供たちにわかってもらうところから始めました。授業の終わりには、本校のさわやか相談員、スクールカウンセラーからも子供たちに対して「悩んでいることがあったり、心配なことがあったりしたとき、相談してください。」と直接呼びかけてもらいました。

子供たちが夢の実現に向けて学校で支援できることを継続していきます。

